
平成26年3月期 決算説明会

平成26年5月13日

 株式会社 **DTS**
DTS <http://www.dts.co.jp/>

目次

I**平成26年3月期 実績****II****主要施策の状況****III****平成27年3月期 見通し**

本資料についてのご注意

本資料に記載されている将来の売上高および利益などの予想数値は、業界の動向を含む経済情勢、お客様の動向など、現時点で入手可能な情報をもとにした見通しを前提としておりますが、これらは、種々の不確実な要因の影響を受けます。したがって、実際の売上高および利益などは、本資料に記載されている予想数値とは異なる場合がありますことをご承知おきください。

I . 平成26年3月期 実績

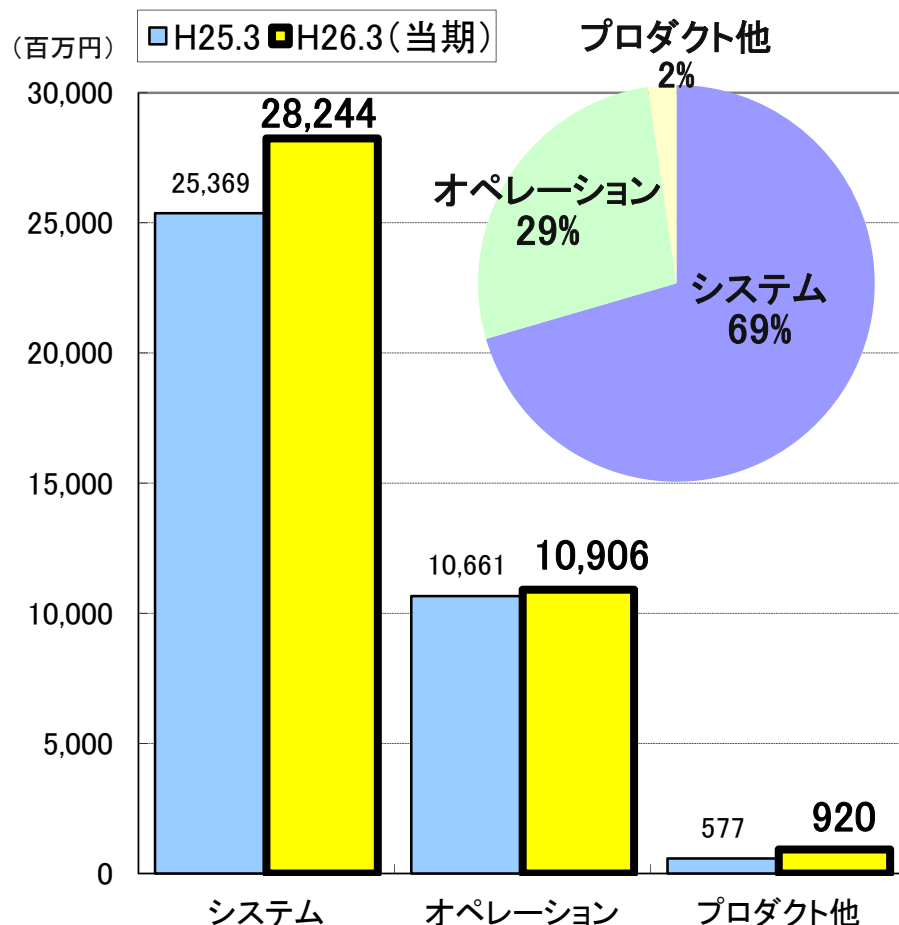
平成26年3月期 単体・業績実績

売上高、営業利益ともに業績予想を上回り、増収増益を達成

(単位：百万円、%)	金額		前年同期比		業績予想比	
	金額	売上比				
売上高	40,071	—	109.5%	+3,463	105.5%	+2,071
売上総利益	7,076	17.7%	115.9%	+ 971	108.0%	+526
販管費	3,430	8.6%	115.2%	+453	100.9%	+30
営業利益	3,646	9.1%	116.6%	+518	115.8%	+496
経常利益	3,830	9.6%	116.7%	+548	116.1%	+530
当期純利益	2,303	5.7%	112.9%	+262	112.4%	+253

単体・品目別売上高

システムは、銀行の大型案件が牽引。オペレーションは、微増。
 プロダクトは、PC特需で大幅に増加



システム (前年同期比 111.3%)

銀行の統合案件や制度改正案件が大幅伸長
 製造業やサービス業などでも既存案件の拡大
 や新規案件を獲得

オペレーション (前年同期比 102.3%)

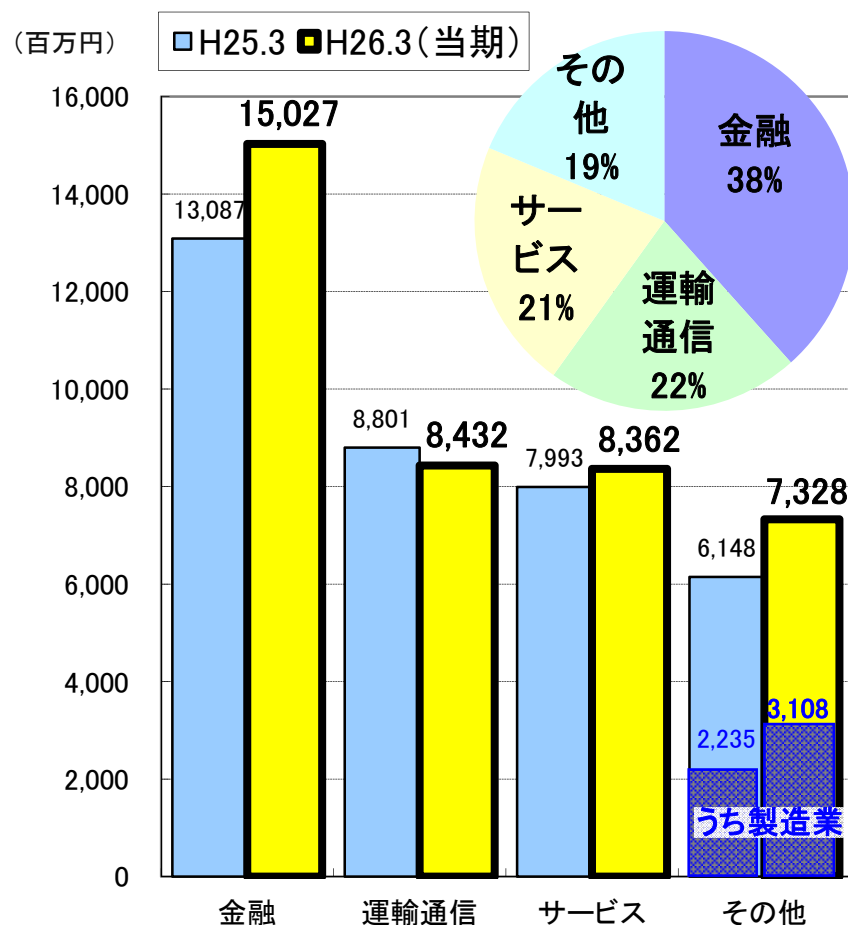
ネットワーク運用案件が拡大

プロダクト他 (前年同期比 159.5%)

パソコン更改の特需あり

単体・エンドユーザ業種別売上高

金融業は銀行の大型案件が拡大し、大幅に増加。運輸通信業は減少するも、サービス業、その他業種は新規受注などにより増加



金融業 (前年同期比 114.8%)

銀行の統合案件や制度改正の案件が大幅伸長。その他にも、証券などの開発案件が堅調に推移

運輸通信業 (前年同期比 95.8%)

通信は顧客企業の投資抑制により減少。運輸も前年の主要案件がサービスを開始し減少

サービス業 (前年同期比 104.6%)

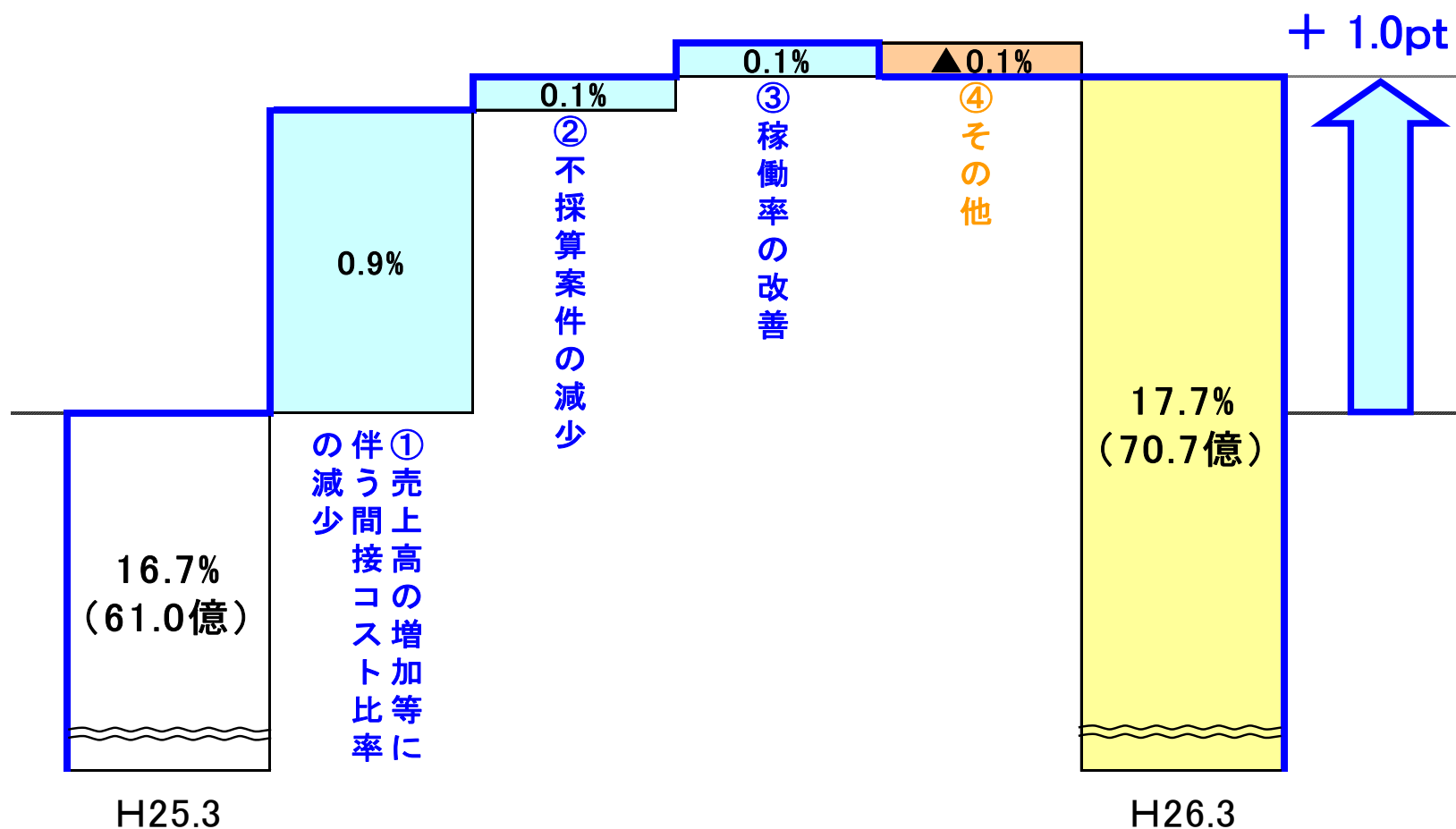
ネットワークサービスやインターネット関連など幅広い顧客で増加

その他 (前年同期比 119.2%)

製造業や建設・不動産業で既存案件の拡大や新規案件を獲得

単体・売上総利益率

売上高の増加に加え、プロジェクト管理の徹底による不採算案件の減少などにより、売上総利益率が向上



単体・営業利益、経常利益

戦略的費用の支出により販管費を増加させたが、売上総利益の増加により営業利益率は向上

販管費 3,430百万円

- ・前年同期比115.2%
- ・売上比率8.6% (前年同期比+0.4pt)

- ・戦略的費用の増加 +520百万円
(営業体制の強化、新規事業、M&Aに関する投資など)
- ・各種経費の抑制 ▲67百万円

営業利益 3,646百万円

- ・前年同期比116.6%
- ・営業利益率9.1% (前年同期比+0.6pt)

経常利益 3,830百万円

- ・前年同期比116.7%
- ・経常利益率9.6% (前年同期比+0.6pt)

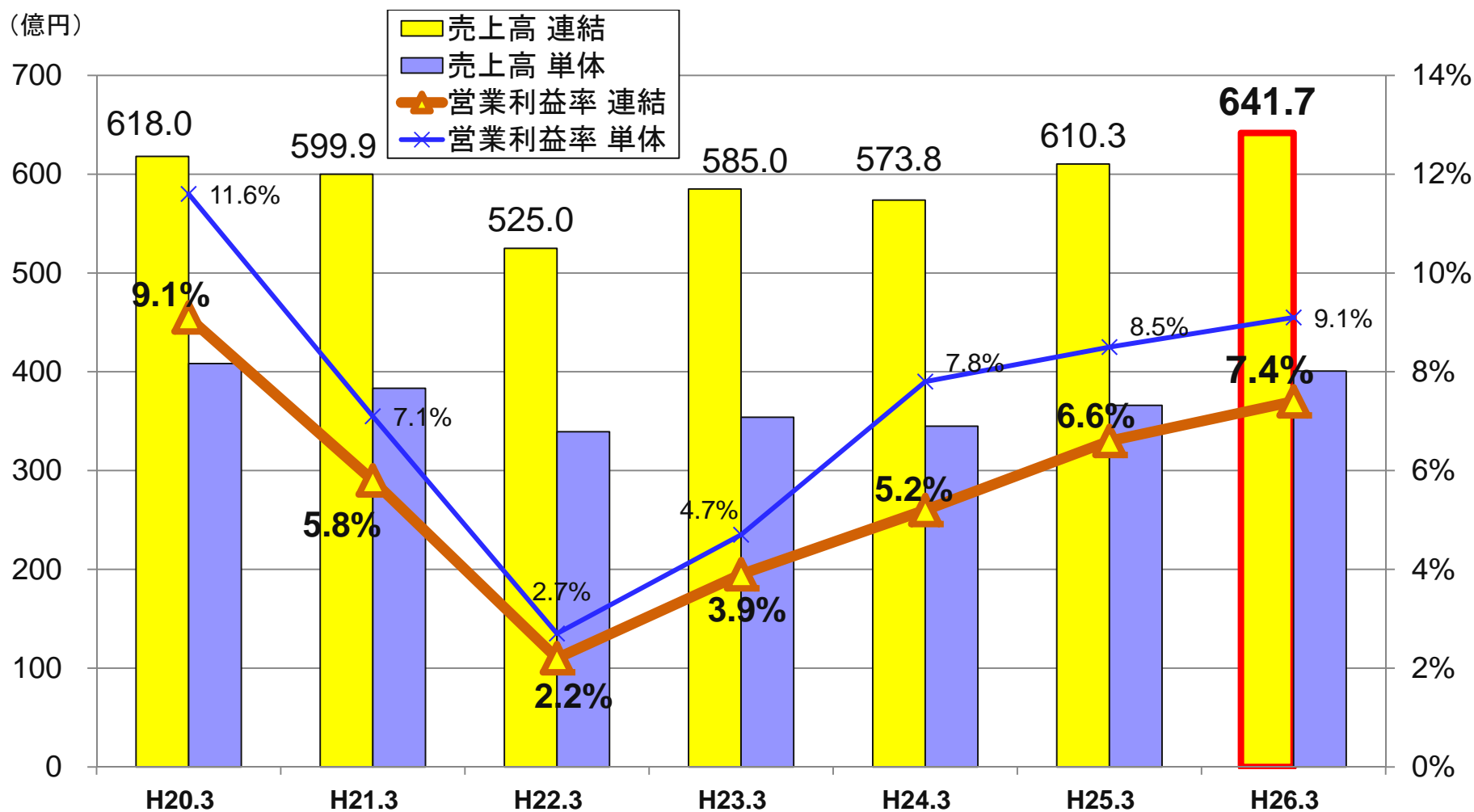
平成26年3月期 連結・業績実績

売上高、営業利益ともに業績予想を上回り、増収増益を達成

(単位：百万円、%)	金額	売上比	前年同期比		業績予想比	
売上高	64,174	—	105.1%	+3,135	103.5%	+2,174
売上総利益	10,626	16.6%	113.5%	+1,266	104.2%	+426
販管費	5,885	9.2%	109.9%	+527	96.5%	▲214
営業利益	4,741	7.4%	118.5%	+738	115.7%	+641
経常利益	4,810	7.5%	117.5%	+715	115.9%	+660
当期純利益	2,653	4.1%	121.9%	+476	120.6%	+453

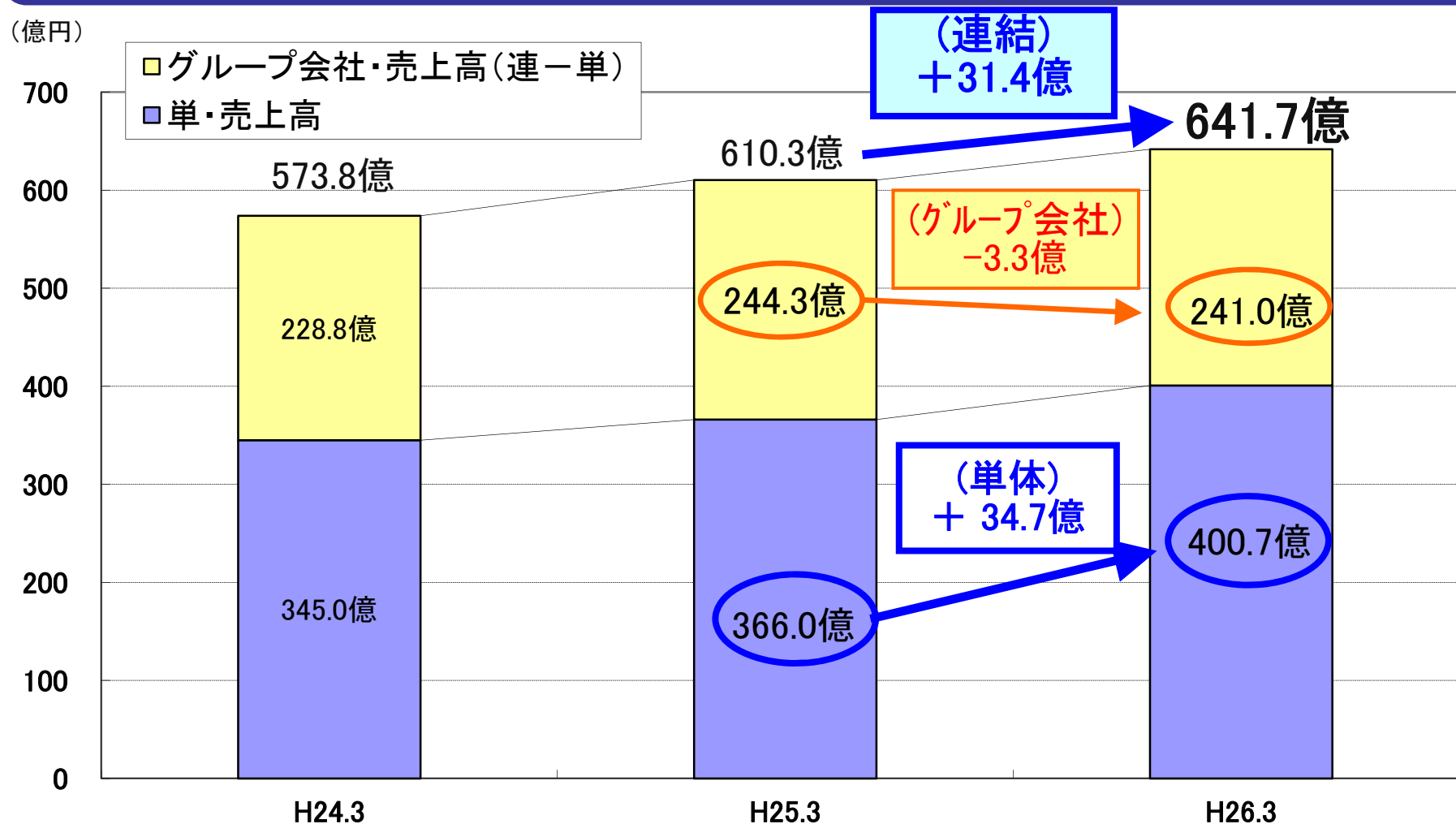
売上高・営業利益推移

連結売上高は、過去最高を更新。営業利益率も、着実に改善



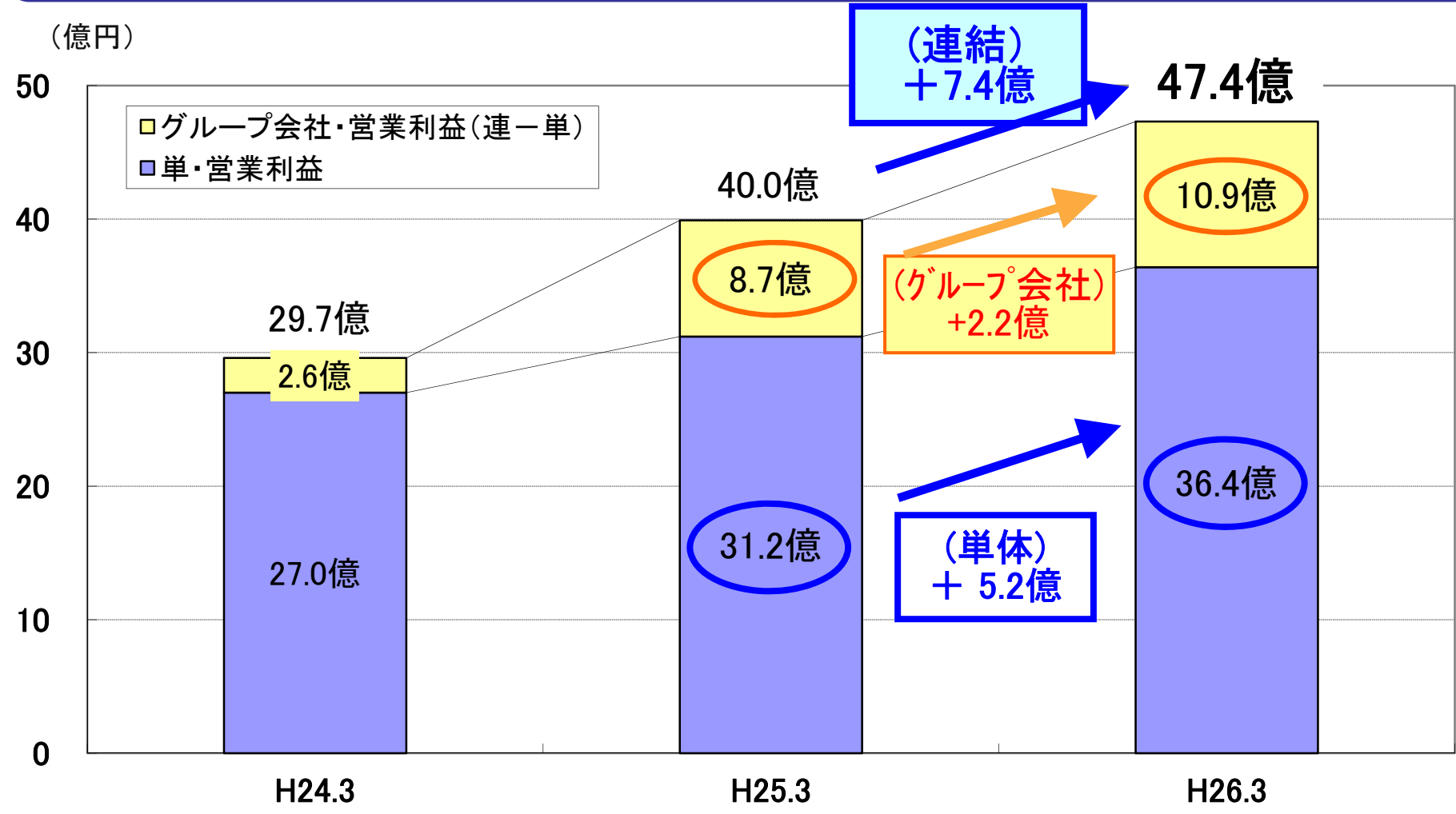
連結・売上高の内訳

生保の更改案件の反動減や、物販の販売減などがあったが、単体の売上高が大幅に増加し、連結では増収を達成



連結・営業利益の内訳

グループ会社における不採算案件の減少や、継続的な構造改革への取り組みが、連結の増益に寄与



グループ各社・業績実績

社名	売上高			営業利益			
	金額	前年同期比	計画比	金額	売上比	前年同期比	計画比
データリンクス	7,851	101.6%	98.4%	273	3.5%	119.6%	113.4%
デジタルテクノロジー	6,517	93.8%	105.1%	66	1.0%	119.9%	66.7%
FAITEC	5,568	95.3%	97.6%	485	8.7%	132.8%	100.7%
日本SE	4,350	108.7%	98.9%	281	6.5%	101.5%	96.9%
総合システムサービス	1,219	101.6%	101.6%	99	8.2%	98.4%	110.7%
九州DTS	1,083	85.8%	90.3%	50	4.7%	81.8%	84.7%
MIRUCA	356	100.8%	95.3%	22	6.4%	[+29]	112.1%
DTS上海	319	-	107.7%	▲3	-	-	[-21]

※各社単体の数値であり、すべてを合計しても連結の数値とは一致しません。

※[]は、当期金額－前期金額です。

※DTS上海は、平成26年3月期から連結しています。

連結・受注

銀行の大型案件をはじめ、製造業、サービス業の開発案件が寄与し、システムの受注高が好調に推移

(単位 : 百万円、%)

	受注高				受注残高			
	金額	構成比	前年同期比		金額	構成比	前年同期比	
合計	66,131	100.0%	108.0%	+4,910	22,241	100.0%	109.6%	+1,956
情報サービス	61,347	92.8%	107.5%	+4,295	20,572	92.5%	106.9%	+1,321
システム	41,322	62.5%	108.6%	+3,280	11,743	52.8%	103.5%	+393
オペレーション	13,964	21.1%	98.4%	▲228	8,617	38.7%	109.6%	+754
プロダクト他	6,060	9.2%	125.8%	+1,242	211	1.0%	558.4%	+173
人材サービス	4,784	7.2%	114.7%	+614	1,668	7.5%	161.5%	+635

Ⅱ. 主要施策の状況

主要施策

- ① 提案力の強化
- ② 事業基盤の強化とビジネスモデルの変革
- ③ グループ経営基盤の拡充

主要施策① 提案力の強化

目的: お客様に最高の価値(ベスト バリュー)を提供できるよう、当社グループならではの提案力を強化する

営業体制の強化

- ・金融、産業、公共のシステム開発、インフラ構築・アウトソーシングの各分野において、営業人員を5割増員
- ・営業担当の責任数字を明確化するKPIを導入
- ・全社営業戦略会議を立ち上げ、各事業部の案件や受注状況を隔週で管理

営業戦略の推進

- ・DTSグループ間の連携を強化し、グループ全体でソリューションマッチング会議を開催。グループ各社の企画やソリューションの共有を図ることにより、顧客開拓を推進

平成27年3月期方針

- 顧客重視の営業体制をさらに強化し、受注確度の向上を図る
- 受注管理の確立と受注状況の見える化を推進し、確実な受注に向けたアクションを推進

主要施策②-1 事業基盤の強化とビジネスモデルの変革

目的: コア事業の拡大や生産性向上により、事業基盤を強化するとともに、受託型ビジネスからの変革や新規ビジネスの創出を図る

<p>『第三の柱』の 創出</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アートシステム(株)と横河デジタルコンピュータ(株)の株式取得、子会社化により組込み分野の売上50億円規模、技術者400人体制を確立。今後成長が見込まれる「医療」「車載」分野を中心に、さらなる事業拡大を目指す
<p>ソリューション/ サービス提供型 ビジネスの拡大</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ERPソリューションの営業体制を強化。モバイルやクラウド分野への領域拡大も推進 ・自社パッケージのライセンス販売拡大と、オフショア開発によるコスト削減を推進 ・開発フレームワーク「TERASOLUNA」は適用案件を拡大
<p>アウトソース型 ビジネスの拡大</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・証券向けAMOサービスが順調に推移。 ・システム運用監視「ReSM」は、サービス提供範囲の拡大と提供メニューの多様化を実施中

平成27年3月期方針

- コア事業の拡大に向け、新たなM&A案件の発掘を継続
- 既存ソリューションは、営業体制の強化やサービス内容の拡充を図り、顧客開拓に取り組む

主要施策②-2 事業基盤の強化とビジネスモデルの変革

<h3>グローバル展開</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ・中国、アメリカ、タイにおいて、日系企業を中心としたビジネス基盤の確立に向けた各種施策を遂行 ・ベトナムにオフショア開発やBPO業務を受託する拠点を設立
<h3>新規企画型ビジネスの創出</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ・Dr. Cowbell(畜産分野のソリューション)の実証実験実施中 ・医療やビッグデータ等の分野で、実用化に向けた取り組みを推進中
<h3>プロジェクトの確実な利益確保</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業本部、支社におけるプロジェクト管理が定着し、「見える化」の徹底により、赤字削減に寄与。大型案件における確実な利益確保に取り組む

平成27年3月期方針

- グローバル売上高の拡大と、海外関連会社のビジネス基盤の確立に向けた取り組みを推進する
- 新規企画型ビジネスの取り組みを強化し、早期の実用化を目指す
- 今後の大型案件増加に備えた体制の確立と、利益確保に向けたプロジェクト状況のモニタリングを強化する

主要施策③-1 グループ経営基盤の拡充

目的: 人材育成・活用の強化や機動的な組織変革を推進。DTSグループの総合力を結集し、グループシナジーの最大化を目指す

<h3>組織改革の推進</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ・『事業部制、担当制』を導入。 環境の変化や事業戦略の見直しに応じて柔軟な組織変更を可能とすることで稼働率の向上を実現
<h3>人材育成の強化</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ・高度技術者の育成人数をKPIに設定し、組織における育成体制を強化 ・提案力の強化に向けた営業のロールモデル人材を育成 ・グローバル人材育成に向けた海外研修を実施 ・次世代幹部候補生の育成に向けた研修を開始

平成27年3月期方針

- 高付加価値人材の育成の継続と、職場環境の改善、満足度向上への取り組みを推進する
- コンプライアンス確保、環境経営などCSR向上へ向けた取り組み強化する

主要施策③-2 グループ経営基盤の拡充






グループ会社の 構造改革	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ各社の営業利益率向上に向けた構造改革を推進。DTSのプロジェクトマネジメント手法をグループ会社へ展開
グループ 経営情報の共有	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ各社からの情報連携の充実や早期化に向け、情報共有の仕組みの構築を推進
グループ再編	<ul style="list-style-type: none"> ・金融事業の拡大に向け、年金・保険業務に特化したFAITECをDTSに吸収合併 ・西日本における最適な事業体制を構築するため、DTSの関西・中京支社を分割し、DTS WESTを設立

平成27年3月期方針

- **グループ各社からの情報連携を強化し、正確・迅速な連結業績分析により、全体最適を目指したさらなるグループ再編の構想を具体化させる**

Ⅲ. 平成27年3月期 通期見通し

当社事業環境の見通し

業種	IT投資の見通し	
金融	<p>銀行は、一部顧客で投資の端境期を迎えるものの、大規模システム統合などにより需要拡大。 信託は、統合特需のピークアウトにより減少。生損保は、堅調に推移。 証券は、顧客の業績改善により需要増を想定。</p>	
運輸・通信	<p>通信は、主要キャリアは抑制傾向が続く。クラウド事業者向けは、引き続き需要増。</p>	
	<p>運輸は、空運で基幹システムの更改需要が見込まれる。</p>	
サービス	<p>企業業績の改善に伴い、幅広い顧客において需要拡大を見込む。</p>	
その他	<p>製造は、組込み事業において、車載、医療等の需要拡大を見込む。 卸小売は、顧客企業の新サービス提供に向けた積極投資に期待。 公共は、年金一元化やマイナンバーなど法改正関連で需要増。</p>	

平成27年3月期 通期業績予想

(単位：百万円、%)

	単体				連結			
	金額	売上比率	前年同期比		金額	売上比率	前年同期比	
売上高	46,000	-	114.8%	+5,928	70,000	-	109.1%	+5,825
売上総利益	8,000	17.4%	113.0%	+923	12,000	17.1%	112.9%	+1,373
販管費	3,800	8.3%	110.8%	+369	7,000	10.0%	118.9%	+1,114
営業利益	4,200	9.1%	115.2%	+553	5,000	7.1%	105.4%	+258
経常利益	4,300	9.3%	112.3%	+469	5,050	7.2%	105.0%	+239
当期純利益	3,850	8.4%	167.1%	+1,546	2,800	4.0%	105.5%	+146

平成27年3月期 上期業績予想

(単位：百万円、%)

	単体				連結			
	金額	売上比率	前年同期比		金額	売上比率	前年同期比	
売上高	21,200	-	113.6%	+2,536	33,400	-	108.4%	+2,578
売上総利益	3,400	16.0%	103.1%	+101	5,200	15.6%	105.2%	+255
販管費	1,900	9.0%	116.8%	+272	3,500	10.5%	122.1%	+633
営業利益	1,500	7.1%	89.7%	▲171	1,700	5.1%	81.8%	▲377
経常利益	1,600	7.5%	88.3%	▲212	1,750	5.2%	82.9%	▲361
当期純利益	2,000	9.4%	177.9%	+875	650	1.9%	57.9%	▲473

参考)平成27年3月期 グループ会社 通期計画

社名	売上高		営業利益		
	金額	前年同期比	金額	売上比	前年同期比
データリンクス	7,855	100.0%	260	3.3%	95.3%
デジタルテクノロジー	6,837	104.9%	105	1.5%	158.8%
日本SE	4,675	107.5%	310	6.6%	110.3%
九州DTS	1,300	120.0%	65	5.0%	128.9%
総合システムサービス	1,283	105.3%	91	7.1%	91.2%
MIRUCA	385	108.2%	10	2.6%	44.4%
DTS上海	342	107.0%	42	12.4%	[+45]
横河デジタルコンピュータ	3,277	-	99	3.0%	-
DTS WEST	1,280	-	88	6.9%	-
アートシステム	910	-	64	7.1%	-
DTS AMERICA	200	-	35	17.6%	-

※各社単体の数値であり、すべてを合計しても連結の数値とは一致しません。

※[]は、当期金額－前期金額です。

※横河デジタルコンピュータ、DTS WEST、アートシステム、DTS AMERICAは、平成27年3月期から連結予定です。

配当

当期業績が業績予想を上回り、期末配当は期初予想から5円増配
 平成27年3月期も、年間35円を予定

	第2四半期末	期末	年間	配当性向 (連結)
平成26年3月期	15円	20円 (期初予想15円)	35円 (期初予想30円)	31.4%
平成27年3月期	(予)15円	(予)20円	(予)35円	(予)29.7%

平成26年3月期
決算説明会

ご清聴ありがとうございました

 株式会社 **DTS**
DTS <http://www.dts.co.jp/>